

3 将来のために、勉強をがんばる児童生徒が増えています。

震災から約5年以上たち・・・

「将来の可能性を広げるために、勉強をがんばっている。」

学年	H25 (%)	H29 (%)
小6	70	75
中3	65	70

将来に対する目標意識が、子供たちの努力しようとする姿勢につながっています

折鶴の七夕飾り作り

あいさつ運動

私たちは歩き始めた未来という光を目指して～♪

おはよう!

復興ソング

故郷復興プロジェクト

流通

生活設計

- ・収入…
- ・家賃…
- ・光熱費
- ファイナンスパーク

販売

職場体験

行政

スチューデントシティや職場体験活動で働く意義を学んだわ

ファイナンスパークで生活設計を学んだよ

I have a dream! (私には夢がある!)

実現 今こ

社会について学ぶ機会を活用し、夢や目標に向かって努力しようとする児童生徒を育てましょう。

学校では

社会の仕組みなどを学ぶ機会から、将来を意識させる

職場体験活動、スチューデントシティやファイナンスパークでの学習等、仙台自分づくり教育を通して、様々な職業の価値や働く意義について理解させることは、社会的・職業的自立を目指すために大切なことです。その際、社会には様々な職業が存在し、働いている人々は仕事にやりがいを持っていることなどを理解させ、発達段階に応じて、自分の将来について広い視点から考えさせるようにしましょう。

今の勉強が将来につながっていることを理解させる

今、学んでいることが将来どのようにつながるのか考える機会を、意図的・計画的に設定することで、児童生徒が自分の可能性を信じ、将来に対しての目標を持つことができるようになります。

ご家庭では

お子さんが自分の良さを実感でき、意欲を持って日々の学習に取り組むことが大切です。結果よりも取り組むの過程を通し、お子さんの良いところを見付け、褒める機会を多く設けるようにしましょう。

また、将来に対して希望が持てるように、お子さんの話をよく聞き、励ましてあげることも大切です。



イラスト：仙台市立郡山小学校 風間 凛さん

すすめっこ

～子供たちの明るい未来のために～

仙台市確かな学力研修委員会
生活・学習状況調査部会

平成29年度 仙台市生活・学習状況調査 分析の結果をお知らせします

みんな 一人一人がすばらしい



- 1 自分の考えを話せていますか？
- 2 自分の良いところを知っていますか？
- 3 自分の将来に向けて努力していますか？



うちの子はどうなのかしら？

詳しくは
中面へ

- 実施状況
- ①実施校数・・・ 市立小学校 120校 市立中学校 63校 中等教育学校 1校
 - ②実施日・・・ 平成29年4月12日(水)～14日(金)
 - ③調査人数・・・ 小2 8,599人 小3 8,811人 小4 8,681人 小5 8,550人 小6 8,219人 中1 8,015人 中2 8,302人 中3 8,214人
 - ④実施内容・・・ ○学校生活 ○授業 ○学習意欲 ○家庭生活 ○自由時間 ○家庭学習等 ○社会・地域との関わり ○道徳心・挑戦・夢 ○自分づくり の9領域についての質問紙調査

仙台市確かな学力研修委員会 生活・学習状況調査部会 仙台市教育委員会 学びの連携推進室

本調査に関する詳細なデータは、仙台市教育委員会のホームページをご覧ください。

仙台市生活・学習状況調査

検索

イラスト：仙台市立八幡小学校 高橋 康一 教諭

1 話し合い活動や自分の考えを発表する機会が増えています。

授業中に自分の意見を発表する機会が増えて、話し合いが活発になってきました

アンケート結果にも表れていますよ

「ふだんの授業では、学級の友達との間で、話し合い活動をよく行っていると思う。」

学年	H22	H28	H29
小5	82%	88%	88%
小6	82%	85%	85%
中1	82%	82%	82%
中2	76%	80%	84%
中3	75%	78%	81%

震災前

授業の中で話し合い活動を積極的に取り入れるようにしています

「ふだんの授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う。」

学年	H22	H28	H29
小5	82%	88%	88%
小6	83%	89%	90%
中1	85%	89%	92%
中2	76%	89%	92%
中3	75%	88%	91%

震災前

受け身の授業から参加型の授業にすることにより活躍の場が増えています

自分の意見をきちんと聞いてもらえる雰囲気づくりも大切にしています

話し合い活動を行い、自分の考えを友達に聞いてもらう体験を増やし、自主的・協働的に学ぶ姿勢を育てましょう。

学校では

主体的な学びを促す授業づくりを

課題意識をもたせるための導入、考えを深めさせるための手立て等を工夫・計画し、単元を通して身に付けさせることを明確にした授業を行うことが大切です。

自分の考えを述べたり、他者の意見を聞いたりする機会を積極的につくる

子供にとって、教員・友達・地域の方等からの意見を聞くことは、自分が気付かなかった視点から、考えを深めることとなります。さらに、自分の意見を受け入れられる経験や、他者からの励ましは、自分に対する前向きな見方や自己有用感に結び付き、何事にも積極的に関わろうとする姿勢や互いの力を合わせてよりよいものをつくろうとする態度につながります。

ご家庭では

コミュニケーションの場を大切にし、お子さんの考えを受容しながら、共感的なアドバイスをするようにしましょう。一緒に考える姿勢を示すことで、自己有用感、自己肯定感が高まり、夢に向かって努力しようとする態度が育ちます。

また、お子さんが普段の学習内容を話す機会があるときは、コミュニケーションをとるきっかけにもなるので、ぜひ、お声掛けをお願いします。



2 「自分には良いところがある」と思う児童生徒が増えています。

「自分には良いところがあると思う。」

学年	H27	H28	H29
小6	65%	72%	78%
中3	60%	65%	70%

先生、ぼくには何か良いところがあるのでしょうか？

グラフを見て

発表したことが認められる 部活動に打ち込む

ふだんしているあんなこと、こんなことが → 実は、それが自分の良さに繋がっています

下級生に優しくする 合唱コンクールで、難しい曲に挑戦

自分で自分の良さを意識し、自信を持つことができる、自己肯定感が高まっています

ウオー！ そうか、ぼくにもキラキラした良いところがあるんだね！

あら

地域で

学校で

家庭で

伸ばしてあげよう

認めてあげよう

社会的・職業的自立につながる活動、「考え、議論する」道徳などを通して、子供たちの自己肯定感を高めましょう。

学校では

周りから認められる経験と、主体的に判断したことを認める場づくりを

子供が自ら考え、主体的に判断したことを認められることは、大きな自信につながり、自己肯定感を高めることとなります。社会的・職業的自立を目指す「仙台自分づくり教育」や道徳で「考え、議論する」活動を取り入れながら、他者を尊重する授業等を計画的に行うようにしましょう。

道徳などの取組を、家庭で話題にできるように工夫する

家庭においても、道徳の授業内容や仙台自分づくり教育の活動を振り返る機会を意図的に設けるようにしましょう。例えば、道徳の授業での取組や児童生徒の考えを、学級通信などを通して家庭に発信することが考えられます。

ご家庭では

学校で行われた道徳の取組や資料、社会的・職業的自立を目指す「仙台自分づくり教育」の活動等について、ぜひお子さんと話し合う機会を設けてください。答えが見いだしにくい内容だからこそ、お子さんの心の声を聞くことができると考えます。

その際には、お子さんと本音で向き合うとともに、お子さんの考えや主張を受容することが大切です。話し合いを通して保護者の皆様の考えをお子さんが知ることは、お子さんの心の成長の大きな糧になるはずですよ。

